

C—6 半透明衣料の融合混色効果に関する研究 (第3報)

——光の廻折現象と織物の空間面積と糸の太さの関係について——

奈良女大家政 山崎 勝弘
岡山就実短大 ○吉田 敏子

1. 半透明衣料の色と、アンダードレスの色との融合混色について、既に研究報告を行なったが、その後の研究過程において『光の廻折現象』の影響が少なからずあるということが推察されたので、織目の空間面積の大小、及び空間面積と糸の太さとの面積比の相異による融合混色の様相について再検討を試みた。

2. 試料には、組織の粗密の異なる黒布8種類を用意し、ベースの色には修正マンセルの純色R.G.及びPBに準じた赤、緑、青の3色を500カラーカードの中から選び、白ベースとして標準白色盤を用い、夫々の色度と、重ね合わせによる混色値をカラーコンピュータで算出、色度図上の色点配置を吟味し、混色点の転移状況を比較検討、更に比反射率Y値について検討した。ただし空間面積の絶対値、並びに糸の太さと間隙との比は顕微鏡写真により算出した。

3. 空間面積の絶対値が極小であっても、糸の太さが極小の場合には実験値と理論値の差が少ないが、糸の太さが比較的大なる場合は実験値と理論値との差が著しく増大する。従って廻折現象は空間面積の絶対値と糸の太さとの関係によって生じ、Y値の異常な低下を生じることが判った。